大阪府立千里青雲高等学校　　令和２年度　第２回学校運営協議会　報告

日　時　　令和２年 11 月 20 日(金)　　　14:10～16:40
出席者　　会長（学識経験者)、副会長（高大連携大学)、保護者代表、
地域住民代表者、その他学校関係団体代表者
事務局（校長、教頭、事務長、首席、教務部長、進路指導部長、生徒指導部長、
保健部長)

内　容　　１　授業見学（14:20～15:10)
２　校長挨拶
３　会長挨拶
４　学校現状報告
ア）学校運営協議会への意見書の提出
令和２年６月 30 日より令和２年 11 月 19 日まで　なし
イ）学校運営協議会実施要項改正について
オンライン会議システムを利用した会議への出席等について追記
ウ）修学旅行について（第２学年)
令和３年１月 27 日（水）～30 日（土）長野県菅平方面（スキー）に変更
エ）令和３年度使用教科書採択報告（教務部)
オ）12 期生進路中間報告（進路指導部)
カ）生徒指導状況報告（生徒指導部)
キ）活動報告（特別活動部)
ク）活動報告（保健部)
５　質疑応答・意見交換
６　校長謝辞
７　諸連絡

＜質疑応答・意見交換＞　　　○は委員からのコメント　　⇒は事務局のコメント

＊進路指導について
○従来のＡＯ入試が総合型選抜に名称を変えているが、それ以外で学校の対応として変化はあったか？
⇒コロナ禍でスケジュールが後ろにずれ込んだが、早期に進路希望調査を実施し、２学期前には保護者説明会も終えることができた。新入試に対する不安もあろうかと思うが、変化の有無は進路希望先によって様々であるため、情報を整理する必要がある。早期に進路を決定させたいあまりに安易な受験に走らないよう、志望を下げずに粘り強く頑張るよう指導している。今年度の特徴として、総合型選抜（ＡＯ）にチャレンジする生徒が例年よりも多い。共通テストの志願者は、昨年度 85 名から今年度 105 名に増えた。全員第１日程での受験を希望している。
○指定校推薦による進路内定者で女子が多いのは例年の傾向か？
⇒元々の男女比も影響しているので一概には言えないが、一昨年度は男女合わせて 40 名前後、昨

年度は60名だった。
＊学校行事について
〇学校によっては、文化祭を実施し、体育祭も外部からの入場なしで行っている。千里青雲でどちらも実施しないのは残念だったが、「青雲フェス」の文化部発表やアマビエ壁画で文化祭の代替ができたことはよかった。音楽祭は例年どおりの形態だったのか？
⇒学年別の分散実施で保護者入場なし、舞台上でもマスクを着用して感染拡大防止に留意した。
＊地域連携について
〇蛍池公民館のイベントで、青雲生の美術作品展示と子どもへの工作指導ボランティアを引き受けていただいた。コロナ禍でイベント実施が制限されている中、美術部の生徒たちが子どもたちと一緒に取り組む様子に感動した。高校生のボランティア力はとても大きい。今後とも地域との連携に協力いただけると非常にありがたい。
＊部活動について
〇クラブ加入率が他学年に比べて２年生で低くなっている理由は？
⇒２年次途中でやめる生徒が多かったクラブもあると聞いている。
＊新型コロナウイルス感染拡大防止について
〇加湿器は各教室に配備しているか？
⇒ホームルーム教室は全クラスに配備した。天候や人数によって状況は変わるが、40人授業に対応できるものを配備している。
〇感染拡大防止のための対策は？
⇒マスク着用、消毒液の使用、手洗い・うがいの励行について指導している。
〇換気についてはどうか？
⇒可能であれば常時。難しければ下だけ（上だけ）などいろいろな工夫が考えられるが、そこまで細かい指示はしていない。ただし、暖房使用中は換気スイッチも同時に入れるよう伝えている。
〇G Suiteによる健康チェックの結果管理を、どのように行っているか？
⇒養護教諭が各学年と連携して全生徒の健康状態を把握している。入力を忘れる生徒もいるので、後から紙で提出してもらうなどのフォローもしている。
＊授業見学の感想等
〇生徒と先生との距離が近く、コミュニケーションがよく図られていると感じた。
〇鞄が床に乱雑に置かれているなど、教室が汚いことにびっくりした。整理整頓に努めてほしい。
〇換気の状況が良い教室とそうでない教室がある。生徒の人数にもよると思うが、空気が汚れないように注意してほしい。
〇授業見学先の一覧表がわかりやすかった。今回は授業の特徴を事前に教えてもらえたので、より興味を持って見学することができた。
〇マスクをしていない生徒がいたのが気になった。
⇒マスク着用は原則。呼吸が苦しいときや熱中症が懸念されるとき、水分補給時などは、発話せずに身体的距離を確保し、一時的にマスクを外すことを認めている。もちろん、マスクを着用せずに至近距離で会話をすることは論外であるので、その場合は指導が必要。
〇それぞれの授業において先生方の工夫が感じられたが、授業の進め方について方針や基準のようなものはあるのか？
⇒評価・育成システムにおいて、教員それぞれが目標を設定し、授業を振り返ったり、管理職が聴き取ったりする機会を設けている。授業改善については、授業研究委員会が核となり、相互授業見学などの取組みを行っている。今年度はＩＣＴ機器の活用がキーワードとなっている。

〇授業観察は全教員について行っているのか？
⇒全教員の授業を観察している。
〇学校で実施している授業を、出前授業のような形で、地域のイベントにおいて公開できればよいのでは？
⇒例えば、地域の子どもたちと科学実験を一緒に行うなど、少人数による参加型が望ましいと思う。授業に限らず、クラブ活動を単位とした関わり方もある。地域連携の重要性に鑑み、どのような形が可能なのか探っていきたい。
〇学校全体として落ち着いた雰囲気が感じられた。廊下や階段には生徒作品が展示され、学校としての活力も感じた。
〇ＩＣＴ機器を活用している授業もあり、興味深く拝見した。使うことに慣れれば、教師の負担軽減にもなる。ただし、板書代わりにプロジェクターを使う際には、生徒にとって見やすいかどうか（黒板に比べて見えにくくなっていないか）を確認しておく必要がある。
〇ＩＣＴ機器の活用にあたっては、どのソフトを使用するかによって効果の現れ方が異なってくる。教科書選定と同様に、ソフトの検討もぜひお願いしたい。
〇グループワークの利点として、わからないところを教え合える点はあるが、逆に何でもすぐに聞くことができるため、自分でじっくり考える時間がなくなってしまう懸念もある。一人で考える時間も大切にしながら、バランスよく進めていくことが必要。
＊施設について
〇４階渡り廊下を通行した際、雨天後の水たまりで滑りやすくなっていた。雨天時であっても生徒が滑って怪我をしないよう、整備をしてほしい。